

氏名(本籍)	ほそ の とも み 細野智美(東京都)				
学位の種類	博士(医学)				
学位記番号	博甲第5556号				
学位授与年月日	平成22年8月31日				
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当				
審査研究科	人間総合科学研究科				
学位論文題目	睡眠薬に対する患者の不満要因の解析に関する研究				
主査	筑波大学教授	博士(医学)	朝田	隆	
副査	筑波大学教授	医学博士	浦山	修	
副査	筑波大学准教授	博士(医学)	猪股	伸一	
副査	筑波大学講師	博士(医学)	福永	潔	

論文の内容の要旨

(目的)

本研究の目的は、個々の患者に適切な睡眠薬を処方する上で考慮すべき要因を明らかにすることである。そこで1) 入院患者を対象に睡眠薬を種類毎に分類して不満要因を解析し、次に2) 入眠障害に用いられる薬剤のうち、性別によりクリアランスの異なるゾルピデムを服用している患者および加齢によりクリアランスの異なるプロチゾラムを服用している患者を対象に不満要因を探索する。

(対象と方法)

研究1) 筑波大学附属病院において睡眠薬が処方されている入院患者310名(男性161名、女性149名)を対象。平均年齢が 60.5 ± 15.0 歳、疾患は悪性腫瘍125名(40.3%)、膠原病56名(18.1%)、心疾患44名(14.2%)、糖尿病30名(9.7%)である。処方睡眠薬は、超短時間作用型がゾルピデム、トリアゾラム、ゾピクロン、短時間作用型がプロチゾラム、リルマザホン、エチゾラム、ロルメタゼパム、中・長時間作用型がフルニトラゼパム、ニトラゼパム、クアゼパム、エスタゾラム、ジアゼパム、ロフラゼパムエチルであった。これらを種類毎に分類して不満要因を解析する。

研究2) 筑波大学附属病院において、不眠に対し睡眠薬が処方されている入院患者のうち、ゾルピデム服用172名(男/女:79/93)〔ゾルピデム群〕およびプロチゾラム服用157名(84/73)〔プロチゾラム群〕を対象とした。両者において不満要因を探索する。

(結果)

研究1) 睡眠薬に対し不満のある患者は、超短時間作用型群32名(25.8%)、短時間作用型群35名(23.5%)、中・長時間作用型群11名(29.7%)であった。それぞれの睡眠薬において投与量、投与期間を調査したところ、不満のある患者および不満のない患者で有意差はみとめられなかった。睡眠薬の種類によらず、23~30%の患者が睡眠薬に対して不満を持っていることがわかった。それぞれの種類の睡眠薬において、平均の総睡眠時間は、不満あり患者の6時間未満に対し、不満なしの患者では7時間より長いことが明らかになった。

研究2) ゾルピデム群およびプロチゾラム群に共通した睡眠薬に対する患者の不満要因は、総睡眠時間が

6時間未満と中途覚醒回数の多いことであることが明らかになった。

(考察)

研究1) 不満のある患者と不満のない患者の総睡眠時間には1時間の差があることから、睡眠薬に対する患者の不満要因は、総睡眠時間が6時間未満であることである。したがってガイドラインにもとづき不眠のタイプと睡眠薬の作用特性が合致するように睡眠薬を変更することで、患者の不満が解消されると考えられた。

研究2) 睡眠薬に対する患者の不満には、それぞれの睡眠薬の薬物動態学的特徴や薬力学的特徴が影響をおよぼしていると考えられる。特に、性別や年齢によるクリアランスの違いのような薬物動態学的特徴は、本研究で対象となったゾルピデムとプロチゾラムのいずれにおいても患者の不満との関連が示され、薬物のクリアランスの違いが患者の満足感にも影響を及ぼしていることが示された。したがって、年齢や性別でクリアランスが変動する睡眠薬を処方する場合や、併用薬によりクリアランスが変動する場合は、これらの要因を考え投与量を設定するか、他の薬剤に変更すれば患者の不満が解消されると考えられた。

審 査 の 結 果 の 要 旨

大学病院入院中の患者において、不眠は重要な問題である。診療科によらず医師は、個々の患者に適切な睡眠薬を処方すべきである。それを実行する上で考慮すべき要因については、これまで知見が乏しかった。細野氏は、この点に注目して臨床研究を行った。そして不眠のタイプと睡眠薬の作用特性が合致するように睡眠薬を変更すること、また年齢や性別によるクリアランス、併用薬を考えた投与量の設定と薬剤選択の重要性を述べた。これらは臨床上の重要性が極めて高い指摘である。

よって、著者は博士（医学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。